平戸市 議会だより

vol.79
令和５年（2023年）
５月１日発行

CONTENTS

とかいせん
３月定例会

❷…３月定例会　ここに注目！
❹…総務厚生委員会・産業建設委員会レポート
❽…審議された案件と結果
❿…所管事務調査報告
⓫…政務活動報告
⓬…一般質問
⓲…平戸のチカラ

大バエ灯台

とかいせん
No.79 2023.5.1 平戸市議会だより
編集・発行：平戸市議会広報特別委員会 平戸市岩の上町1508-3
TEL22-9170 FAX22-3427 E-mail:gikai@city.hirado.lg.jp

平戸のチカラ　このコーナーでは、平戸市の宝をご紹介します。

生月砲台跡（生月島の戦争遺構）

生月砲台観測所跡

どんな施設？

今回の平戸のチカラでは、生月砲台跡を紹介します。

生月砲台は、生月町北部の御崎地区ミンチマ山にあり、旧帝国陸軍の要塞である「壱岐要塞」の一つとして対馬海峡防備のため、第二次世界大戦前に造られ、大砲２門が配置されていました。このほかにも生月島には、軍管轄の戦争遺構として、大バエ鼻砲台、長瀬崎防備衛所などがあり、生月砲台跡については、現在も観測所跡地に建造物が残っており、見学することが可能となっています。

身近に存在した遺構

生月島の戦争遺構の調査を行っている、生月ボランティアガイド協会の 田中まきこさんにお話しを伺いました。

生月ボランティアガイド協会
田中まきこさん

Q　地元の人にもあまり存在が知られていなかったという生月島の戦争遺構を、調査することとなったきっかけとは何でしょうか。

A　存在としては、生月島の歴史や自然を学ぶ「ふるさと探検隊」の活動で知っていましたが、その当時は自分で調査してみたいと思うまでには至っていませんでした。しかし、その後各地の遺構や廃墟などを取りまとめたブログの中で、生月島の戦争遺構の一つである生月砲台を紹介しているものを発見し、「生月に住んでいるのに身近に存在する遺構について何も知らなかった」ことにショックを受けたことが調査のきっかけです。公式にも、生月島の戦争遺構が学術的にまとめられた資料は存在していなかったため、令和２年度より地元有志と、生月町博物館「島の館」に協力をいただきながら、自分たちで調査を進めていくことにしました。

Q　現時点で調査はひと段落したのでしょうか。今後の活動についての考えを教えてください。

A　生月砲台跡以外にも多くの遺構が存在していますが、調査を進めた中で、存在が知られた遺構の中でもどんな部分であったのかが分かっていないものや、用途が不明な遺構も発見されています。調査は未だ道半ばであり、今後も調査を継続していきたいと思っています。

Q　戦争遺構の調査によって得られた成果は、今後どのように活用していきたいと思っていますか。

A　地元小・中学生をはじめとする子どもたちに、実際の遺構を見てもらうことや、戦時中にどのように使われていたのかを知ってもらうことで、平和教育の充実につなげていきたいですね。また、戦争遺構群をガイドしながら周遊するツアーを企画することで、市内外の多くの方にこの遺構を知っていただければと思います。

取材風景

お問い合わせ先　特定非営利活動法人
山田・舘浦地区まちづくり運営協議会集落支援員　TEL（0950）53-1550

編集後記

今年も慈眼桜は、春霞の中、緑の中にきれいに咲きほころんだ。

春には出会いと別れの二つの顔がある。学校や職場において多くの人々がその顔に出会ったことだろう。

ロシアによるウクライナ侵攻から１年が過ぎた。戦争犯罪とも報道される悲惨な行為により尊い命を奪われ、永遠の別れにさらされた人々の思いを察すると涙が止まらない。

今回取材したのは生月島の戦争遺構。ボランティアガイドの田中さんは、これまで噂でしかなかった砲台や地下壕の性格を独自の調査によって明らかにし、現在もさらなる調査を進めている。これは、戦時中の偉大なる発見と歴史的出会いである。

しかし当時を想像すると、どれだけの人々が戦争に巻き込まれ、別れという悲しみに暮れたことだろうか。それを思い起こしながらウクライナに思いを馳せるとき、先人から戦争を二度と繰り返してはならぬと形に残された永遠の学びである「縁」を守りたいと強く思う。

私たちは、明るい未来を築くために、ひたすら前へ進まなければならない。

（神田　全記）

広報特別委員会

委員長	松口	茂生
副委員長	神田	全記
委員	井元	宏三
委員	針尾	直美
委員	吉住	龍三

平戸市議会　検索　市議会の詳しい情報は、平戸市議会のホームページをご覧ください。